

成果報告書（会津若松市男女共生の会）

会津若松市男女共生の会  
会 長 渡部 タカヨ

- 1、 主題 視察研修
- 2、 主催 会津若松市男女共生の会
- 3、 研修地 白河市立図書館  
泉崎村障がい者生活支援センター・こころん  
アウシュビッツ平和博物館
- 4、 日時 平成 24 年 1 1 月 17 日（土）
- 5、 参加人数 女性 17 名 男性 5 名 合計 22 名
- 6、 内容 別紙資料の通り

## 白河市立図書館

2011年7月に移転開館した図書館はJR白河駅に隣接した中心市街地にあります。知識の拠点となる図書館、交流の拠点となる会議室、地域産業を支援する産業支援センターが配置された複合施設です。

中心市街地、駅に隣接という場所はまちづくりの拠点施設としての大きな役目をはたしていて、多くの市民に愛されていると感じられる図書館でした。

市内にはこの他に3館の図書館（合併により一緒になった）があり、中央館の役割をたす図書館です。

1階は新聞、雑誌、音と映像、産業支援、こどもの本のフロアです。おはなしの小屋はワクワクするような小屋づくりのコーナーでこどもが少々汚しても、すぐにきれいにできるコルク床でできた素敵な場所で、読み聞かせが行われていました。音と映像のコーナーは数多くのCD、DVDが揃っていて、視聴ブースは個室感覚でゆったり利用出来るようでした。新聞21紙、雑誌161誌と種類が多くとても羨ましいコーナーです。産業支援のコーナーは今後大きな役目をもってくる場所だと感じました。

2階へは透明な館内を見渡せるエレベーターで上がります。一般書、地域資料、ティーンズコーナーがあります。会津図書館との大きな違いはティーンズコーナーが多く、若者に利用されていることでした。土曜日ということもあり中学生、高校生とおもわれる若者が勉強のためでなく利用している姿を見て本来の図書館としての利用を知っているのだと思われました。小さい時から図書館の利用の仕方を知っているということは良き市民を育てるといふ図書館が持つ役割が果たされているということでしょう。

新刊書やおすすめ本、特設コーナーなどが充実していて、いろいろな本に出会ってほしいという気持ちが伝わってきました。

館長は新図書館づくりをする時に他県から呼ばれて館長職に就かれたそうで、このような図書館に対する市の姿勢が素敵で市民愛されている図書館づくりに表れていました。図書館のあるべき姿が明確で運営が十分に考え尽くされていると感じられるところが随所であり、利用者と資料を結ぶという図書館の役目では、そこで働く人が一番大事なことだと強く思いました。

ちょっと疲れたり、おなかがすいたら利用出来るカフェもあり、温かで居心地の良さを体感し、近くにこんな図書館があったら幸せという去りがたい気持ちで図書館を後にしました。

今回視察をした社会福祉法人「こころん」

心の音・・・障がい者もそうでない人にも優しい場所という事で公募で決まったネーミングの「こころん」は、障がいがあるなしにかかわらず、誰もが安心して暮らせる地域社会を目指している。

障がい者が住みやすい街は、誰にとっても住みやすい街。

障害者が地域で暮らすのは当たり前、障がいのある人もない人も、お互いに人格・人権・個性を尊重し、ともに生きる社会の実現、その人らしい地域での暮らしを支える施設が「こころん」の目指す所でした。

就労支援・・・就労移行支援・就労継続支援・ジョブコーチ支援

生活支援・・・住まいと暮らしを支援する

グループホーム・ケアホーム・ホームヘルプサービス

活動支援・・・地域活動支援センター・相談支援事業

2002年にNPO法人「こころネットワーク県南」として、5名でスタートした施設も今や女性の施設長ほか40名のスタッフとなり、男性も女性も、障がいを持った人もそうでない人も、いきいきと働いている姿がとても印象的でした。

こころんのあゆみ

2002年 NPO法人「こころネットワーク県南」設立

2004年 「生活支援センターこころん」を開設

2005年 NPO法人「こころん」に名称変更

2006年 グループホーム・ケアホーム「あけぼの荘」事業開始

共同作業場「なごみの家」事業開始

「直売・カフェこころや」開設

障がい者自立支援法へ移行

2008年 グループホーム「こころんはうす」設立

2010年 養鶏場「矢部農場」開始

2011年 社会福祉法人「こころん」に変更

「こころん工房」開設

男女共同参画社会とは

、男性も女性も健康な人も障がいを持った人もすべての人が、性別にかかわらず一人の人間として尊重され、その個性や能力を十分に発揮する事ができ、あらゆる分野にともに参画し、支え合い、責任を担う社会を目指すとした時、会津若松の障がいをもたれた皆さんの現状は、就学時以降はなかなか難しいのではないかと感じた。

今回の研修の参加者は、30代～80代の男性5名、女性17名で車中は見学地や資料の説明、又自己紹介をしながらの情報交換等、和やかで充実した一日となった。

## ●設立の経緯

1988年、市民有志が、アウシュビッツ収容所跡を保存管理するポーランド国立オシフィエンチム博物館から犠牲者の遺品と記録写真借り受け全国巡回展を企画、ボランティアに支えられ10年間続いた。その後、同巡回展の有志によって、2000年4月、国立オシフィエンチム博物館の協力のもと、アウシュビッツ関連資料の常設展示館が栃木県塩谷町に開館しアウシュビッツ平和博物館が誕生した。

2003年4月本格的な博物館建設のために、交通アクセスと自然環境に恵まれた福島県白河市に移転、2004年4月健全・安定した運営を確立するために平和博物館運営組織を福島県認可・認証の下、NPO法人化し現在に至っている。(HPから要約)

## ●施設概要

展示室は江戸中期の古民家を茨城県玉里村から移築、200人のボランティアの手で再建された。アウシュビッツの記録、レスキューズ・セクション、ビデオ室、別棟にアンネフランク・ギャラリー、また平和の広場の貨車内に第2展示室がある。

## ●研修まとめ

はじめにビデオ室で博物館の説明を受け、アウシュビッツの記録映画をビデオ視聴した。アウシュビッツは、第二次世界大戦時にナチス・ドイツが占領地ポーランドに建設した最大規模の強制収容所で150万人の尊いいのちを子ども・女性・障がい者などの弱者から次々奪っていった。20分程の短編であるが、語る言葉を無くすほどの凄惨な歴史的事実を伝えている。その後館内を見学、展示の説明の中に「なぜ？」という問いかけが所々に見られた。ここを訪れた見学者の多くが「なぜ？」という思いにかられるのではないか。

そのような中、レスキューズ(「危機的状況から他者を救出、救済する者たちのこと」)の存在も展示されていた。よく知られている「杉原千畝」「コルベ神父」「コルチャック」らの他「『いのちの救済者・勇気ある人びとの肖像』ナチスに立ち向かった市民たちの勇気と感動の記録」があった。また、「アンネ・フランク」は「ナチスのはげしい迫害と差別にも負けず、人を愛し、未来への希望を失わなかった少女」として人々に勇気を与え続けている。このアンネ・フランクギャラリーにはアンネフランク財団(アムステルダム)から著作権を取得した関連写真が展示されている。

「アウシュビッツ」は「差別と迫害、生体実験、大量虐殺など戦争犯罪すべての要素が凝縮されて」いて「戦争犯罪を象徴する場所」でもある。広島原爆ドームと同様に「人類が二度と繰り返してはならない20世紀の負の遺産」としてユネスコ世界遺産に登録されている。

3・11東日本大震災・原発事故を経験した私たちは何よりいのちと人間の絆の大切さを再認識した。今回の研修は平和と人間のいのち・尊厳を考える原点「アウシュビッツ」をより深く知るよい機会となった。そしてこの博物館が市民による手づくり、ボランティアに支えられていることの意義も考えさせられた研修でもあった。

2012.11.17

## 視察研修参加者アンケート及び感想のまとめ

### 白河市立図書館

以前はただの草原だったという市立図書館は広々とした場所に、ゆったりとした雰囲気の中で建てられています。駅がすぐ隣と言う立地で周りにはまだ空き地もありこれから賑やかになっていくという印象でした。

はじめに館長よりこれまでの経過や館運営の姿勢・考え方などについて説明を受け、館内を案内していただきました。

### 参加者のアンケートや感想

参加者全員が大変よかった、と言う感想でした。

- 館長の持つ図書館のあるべき姿が明確で、運営が十分に考え尽くされていると、感じられるところが、随所にあった。
- 利用する人の立場に立って考えられている。
- 自分が探す本のほかに、見たい本にいろいろ出合せそうな置き方で、本が探しやすくなっている。
- なぜかほっとできる場所になっている。
- 館内に温かい心使いの努力が感じられて心落ち着いてほっとできる場所になっている
- はじめに図書館長として熱意と知識、経験の豊かな人を呼んで、図書館づくりをしていることがすばらしい。
- 学習室をつくらないという理念をしっかりと持っているのがよい。
- 周りの自然や街の景色（小峰城公園）などが見えるのも素敵。

### 障がい者生活支援センターココロン

- ・ はじめは精神障害者の支援をするために立ち上げられたとの事でしたが、現在では幅広く障害者の支援センターになっています。活動もどんどん広がって事業として立ち上げている店や畑・農園などで健常者も含め 50 人近くの人が有給雇用者として働いているとの事でした。

### 参加者のアンケートや感想

- 障害者の支援の施設がこんなに広範にサポートされていること素晴らしい。
- 仕事をしている人たちが生き生きしている

- とてもおいしいランチを食べられ地元の人たちにも、良い刺激になっていると思う。
- 安心して生活が出来、作って売って、社会とつながっている、そのことが実現されていること嬉しい。
- 障がい者、健常者が一体となっているところが素晴らしい。
- ハンデイを持っている人が生活できる場があること、それを支える地域の理解があることがすごいと思った。
- 全く知らない分野が学習できた。
- 開かれたセンターと感じた。

### アウシュビッツ平和博物館

広い敷地に本館、隠れ家の復元、貨車など幾つかのものがあり、初めにビデオで記録などの映像を見た後館内を見学しました。

### 参加者のアンケートや感想

- あまりのことに言葉がない。
- 胸が苦しくなった、
- いかにも平和が有難いか。
- 資料を目の当たりにすることの大切さを感じた。
- 人として見ておかなければと思っていたが言葉にならない。
- 後世に伝えていかなければ
- 先に見たときより、展示の内容がずっと充実していて嬉しかった。
- 実際目で見、映像や実際の写真などに触れることで、今までとは違う理解の仕方になった。
- この施設を民間が維持していることに感動を覚える。

## 収支決算書

### 収入の部

項 目	金 額	摘 要
会 費	33,000	1,500円 ×22名
補助金	32,000	会津若松市より
負担金	31	会津図書館を考える会より
合 計	65,031	

### 支出の部

項 目	金 額	摘 要
交通費	52,500	会津交通株式会社
事務費	12,531	4,451円 封筒・コピー用紙 インク代 8,080円 切手101枚
合 計	65,031	